

第3学年 道徳「この子がわらうには」学習指導案

福岡市立内浜小学校 教諭 床田知子

1 単元（題材）名 「この子がわらうには」

2 単元（題材）の目標

- 日本に来て困っている外国の子どもの様子を見て、自分の経験からのアドバイスを文章化することができる。 (知識及び技能)
- 困っている外国の子どもが笑顔になるようなアイデアをカードに書き、またそれを他の外国籍の児童が見て感想を書いたものをもらい、さらに考えを深めて外国の子どもが笑顔になるようなメッセージをつくることができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 日本に慣れていない子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようにしたいという目的意識を持ち、自分たちの考えたメッセージを学級の友だちに発信し、自己効力感を高めることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元（題材）について

(1) 教材観

本単元では、泣いている外国人の女の子の絵を見て、日本に慣れなかった頃の自分を想起するとともに、自分と同じ日本語指導に通う友だちの「日本の学校に入って困ったこと」アンケートの結果を知って、同じ経験をした自分ならその女の子に何をしたいかを考え、それをカードに書く。

次の時間に、そのカードを読んだ他の外国人児童から感想をもらうことによって、さらに自分の考えを深め、どのようにしたらこの子どもがさらに笑顔になるかをプリントにまとめる。

そのプリントをまとめ、「えがおになるために」というパンフレットにし、在籍学級に置いてもらう。学級の日本人児童に、外国から来た人にはこのような支え方をしたらよいというメッセージを届けられたという自己効力感につなげることができると思う。

(2) 児童観

本日本語指導教室の児童は、全て外国籍で他の小学校から週に一度90分の授業を受けるために現在18名の児童が通級している。この授業で扱うのは、香港出身の3年生Wさん（男子）、通級2年目になるが、自分は英語圏で生きると言い、日本語はほとんど話さない。しかし、笑顔で「ごめんね。」「ありがとう。」「ちょっと待って」を多用して友だちからサポートしてもらい、学級の人間関係は良好である。算数や漢字などは60点ぐらいの点数を取ることができる。読解になるとサポートが必要である。次に、中国出身のEさん（男子）通級1年半で気性は激しく喧嘩も多かったが、担任の先生とラポートが取れ、友人関係も増えてきた。もう一人はハワイ出身のHさん（女子）、インターナショナルスクールから7月に公立小学校へ転入。日本語について簡単な言葉は理解できるが、声も小さくほとんど自分から言葉を発することはない。（Hさんの場合は、カードを英語で書いてもらう。）この3人に女の子の気持ちを考えさせ、「えがおになるために」パンフレットを作成させることは、自分を振り返ることができるとともに、これから自分が在籍する学級の友だちが異文化と接触する際に自分のアドバイスが生きるという意識づけができるのではないかと考える。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、ヒジャブを被っている女の子が泣いている絵を見せ、「なぜ泣いているんだろう。」と発問する。「外国の子どもだと思うけど、泣いているのは・・・」「言葉がわからないから。」「いじめられたから。」「国に帰りたいから。」と自分の経験をもとに意見を言うことができると考える。

次に、「では、この子がわらうためにはどうすればいいと思う?」と尋ね、「言葉を教えてあげる。」「声をかける。」「遊びに誘う。」「えがおであいさつをする。」などのように自分が過去にしてもらいたかったことを発表すると思われる。

そこで、他の通級児童15名から聞いた「外国から日本の学校に入って困ったこと」アンケートの結果を知って、自分も同じようなことを経験したことがある、また、こんなことを思っているんだ等と感想を持ち、外国の子どもが学級に転入した時に、「あなたがこれからしようと思うことを書いてみよう」というカードに自分の考えを記入する。

そのカードを他の通級児童にも見せ、そのカードにコメントを書いてもらう。そしてそのコメントをもらい、文章だけではあるが交流したことにより、さらに「この子がわらうには」について考え、最終的なプリントを書き、それをパンフレットにまとめる。

最後に、その「この子がわらうには」パンフレットを教室に持ち帰る。自分たちで「次に来る外国の友だちが困らないように」手助けができるという満足感を味わい、さらに自分の経験や思いを自分たちから発信していこうとする意欲を高めたい。

(4) ESD との関連

・本題材で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性…様々な人種・文化・宗教・考え方をを持った人々がいる。

相互性…皆なんらかの関わりをもって生活をしており、相互に影響を与えている。

連携性…学級ひとりひとりつながって生活をしている。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

自分だけの価値観では、友だちを理解することは難しい。相手の立場に立つことが必要になる。

・コミュニケーションを行う力

相互を理解するために、自分の気持ちや考えを伝えることができる。

・他者と協力する態度

相手のことを尊重して一緒に行動していこうという態度が大切である。

・つながりを尊重する態度

自分だけでなく、相手とのつながりを重要視する態度。

・進んで参加する態度

自分から課題を考え、解決しようとする態度。

・この学習で育てたい ESD の価値観

- ・人権・文化を尊重する。(文化多様性の尊重)

それぞれの文化を尊重し、決して自国の文化だけが素晴らしいと決めつけるのではなく、多様な文化のあり方に目を向けられることができる。

- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

生きていくために自分の幸福感を大切にすることが重要で、もちろん相手の幸福感を邪魔するものではあってはいけない。

・達成が期待される SDGs

4 教育

17 グローバル・パートナーシップ

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 日本に来て困っている外国の子どもの様子を見て、自分の経験からアドバイスを文章化することができる。(日本語でなくても構わない。)</p> <p>② 自分のアドバイスに対してもらったコメントから、さらに有効なアイデアを文章化したプリントを作成することができる。</p>	<p>① 困っている外国の子どもが笑顔になるようなアイデアを自分の経験から想像することができる。またそれを他の外国籍の児童が見て感想を書いたものをもらい、さらに考えを深めることができる。</p> <p>② 外国の子どもの気持ちとともに、それを日本の子どもたちにどう説明すればわかりやすいかも一方の視点で考えることができる。そして外国の子どもも日本の子どもも笑顔になるようなメッセージを考えることができる。</p>	<p>① 日本に慣れていない子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようにしたいという目的意識を持ち、自分たちの考えたメッセージを学級の友だちに発信し、自己効力感を高めることができる。</p> <p>② 外国から来て不安な毎日を経験した上で日本の生活にも慣れ始め、二つの文化・習慣を行き来する自分の立場に気づき、この気づきをこれからの生活に生かしていこうとする意欲を持つことができる。</p>

5 単元の指導計画 (全3時間)

学習活動	学習への支援	○評価・備考
<p>1 ヒジャブをかぶっている女の子が泣いている様子の絵を見せ、なぜ泣いているのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉がわからないから。 ・いじめられたから。 ・外国に来てさびしくなったから。 	<p>○日本に来てどれぐらいたつか聞き、その後ヒジャブを被った女の子が泣いている絵を見せて、その女の子が泣いているわけを自分の体験とつないで考えることができるようにする。</p>	<p>イ① (思判表)</p>

<p>2 この子がわらうためにはどうすればいいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を教えてあげる。 ・声をかける。 ・遊びに誘う。 ・こちらも笑顔で接する。 <p>3 「外国から日本の学校に入って困ったこと」のアンケートの結果を知って、外国から友だちが来たらこれからしようと思うことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉がわからなると困るから、毎日友だちが新しいことばをひとつずつ教える。 ・悲しい時、いやな時、気持ちが伝わらなくてくやしい思いをしたから気持ちを伝える絵カードをつくって渡す。 ・じろじろ見られたり、こそこそ話をされたりなど、いやな気持ちになることがあったから、学級で出身国のことを調べ、みんなでその子の国についてくわしくなる。 <p>4 「この子がわらうには」カードに自分が考えたアイデアを書く。(何枚でもいい。) (書けない時は口頭でもいい。)</p>	<p>○ヒジャブを被った女の子が笑っている絵を見せて、その女の子の不安が減るためにはどんなことをしたらいいか経験から考えさせるようにする。</p> <p>○事前に他の日本語指導教室に通っている子にアンケートを取り、困ったことが自分と共通していることに気づき、自分のアドバイスが役立つのではないかと気づかせる。</p> <p>○自分の経験したことを想起し、こういう風に工夫したら、随分やりやすかったのではないか、「この子がわらうには」カードをつくといいのではないかということを知らせ、意欲を持たせる。</p> <p>○「この子がわらうには」カードを作成する前に、他の通級児童(同じ経験をした子)にも見せ、共有することを知らせる。</p>	<p>ア①(知・技)</p> <p>ア②(知・技) イ②(思判表)</p>
<p>5 前時に書いた「この子がわらうには」カードに他の日本語教室の児童からもらったコメントを読む。</p> <p>6 コメントをもらったことにより浮かんだアイデアをパンフレット用のプリントにまとめる。</p> <p>7 パンフレットを見て、活動のふりかえりをする。</p>	<p>○それぞれの「この子がわらうには」カードを他の通級児童に見せ、「その子がわらうには」という気持ちを共有させる。</p> <p>○コメントをもらったことにより、さらに自分のアドバイスに自信を持ったり、さらにいいものにしようという意欲を持たせる。</p> <p>○プリントを「この子がわらうには」パンフレットにして、各学級に置くことにより、これからも自分の考えを発信していこうとする気持ちを持たせる。</p>	<p>ウ①(主体的)</p> <p>ウ②(主体的)</p>

(外国から友だちが来てしてあげたいと思うこと。)

- ・その友だちが言いたいことを伝える手伝いをしてあげる。(Hさん 3年生女子 ハワイから)
- ・日本語を教えてあげる。(Wさん 3年生男子 香港から)
- ・いっしょにあそぶ。(Eさん 3年生男子 ニュージーランドから中国出身)

(それを見た子のコメント)

- ・にほんごを教えてあげるのはとてもいいと思う。自分がよく使う言葉とか。(4年生男子 ネパール)
- ・だれかがたすけてくれるとうれしい。(2年生女子 エジプト)
- ・ずっと友だちでいてあげるといいね。(3年生男子 中国)
- ・えがおでね。(1年生女子 インドネシア)
- ・そばにいてあげて。(3年生男子 中国)
- ・ずっとともだちでいてあげて。(4年生男子 中国)
- ・ことばがわからないのはふあんというのをわかってほしい。(2年生女子 バングラデシュ)
- ・友だちができると すごくうれしいということ。(3年生男子 中国)
- ・学校の後でもあそべたらうれしい。(3年生男子 中国)
- ・わたしは、友だちができたから、今すごく楽しい。(3年中国 女子)
- ・いま、ことばがわからなくてしんぱい。せんせいがたすけてくれるけど。(1年生男子 インド)
- ・にここに、ゆっくり話してくれるといいなあ。(1年生男子 中国)

(コメントをもらって)

・Wさん(3年生男子 香港から)コメントありがとう。ぼくは、ずっとみんなからやさしくされています。クラスのともし、みんなありがとう。

この女の子のように泣いたことは、先生からおこられた(と思った)ときだけです。ぼくは、まだ日本語が話せないけど、みんながしてくれたように、トイレの場所とか次どこに行くとか教えてあげたいと思います。英語だと教えられます。(英語でコメント。)

・Eさん(3年生男子 ニュージーランドから中国出身)さいしょ、日本語がわからなくて、みんなとちがうことをしていると、おされたりもんくを言われたりして、ぼくもおしたりして、けんかになった。先生にせつめいできなくて、家で泣いたこともあった。でも、先生が、休み時間にいっしょにあそんでくれて、ぼくにルールをわかるようにせつめいしてくれた。先生はいっぱいあそんでくれる。ときどきおこられることもあるけど、それはぼくがわるいとき。みんなも、外国のともし友だちがきたら、さいしょやさしくルールをおしえてあげて、わからなかったらせつめいしてあげて。(グーグル翻訳を使って)

・Hさん(3年生女子 ハワイから)コメントを見てうれしかったです。みんな読んでくれたのですね。みんなは親切で、困ったことはなかったのだけれど、いきなりクラスの子からいやなことをされてびっくりしました。後から「仲良くなりたいたから。」と聞きました。外国から来た子には、親切にしてあげることと、もうひとつあまり急に仲良くしようとする、相手がびっくりしてしまうことがあると思います。時間をかけてゆっくり仲良くなってね。(英語の堪能な方に通訳していただいて。)



(成果と課題)

○マンツーマンで、横のつながりのない日本語指導において、コメントのみのつながりとはいえ、同じ環境の子どもがいるという意識ができたことは、子どもたちにとって励みになった。

○日本語指導だけに終わることが多かったが、子どもたちの本音を聞くきっかけになり、日常の話題をすることが増えてきた。子どもたちの困った友だちを助けたいという気持ちが伝わってきた。「話そう」という気持ちが、日本語習得の意欲にもつながった。

●来日してすぐ困ったことよりも、少し慣れてきた後の人間関係の方が困ったという意見もあった。少し慣れてきて皆の関心が薄れた時に、どうSOSを出すか方法を考えていくことも大切だと判明した。

●自分たちが困ったことや、新しく外国の友だちが来たらしてあげたいことを文にすると簡単な文章でしか伝えられないことがわかったので、最後のコメントは聞き書きにした。最初から翻訳や通訳を用いるともっと意見が出たと思われる。